

書庫では
声を抑えて





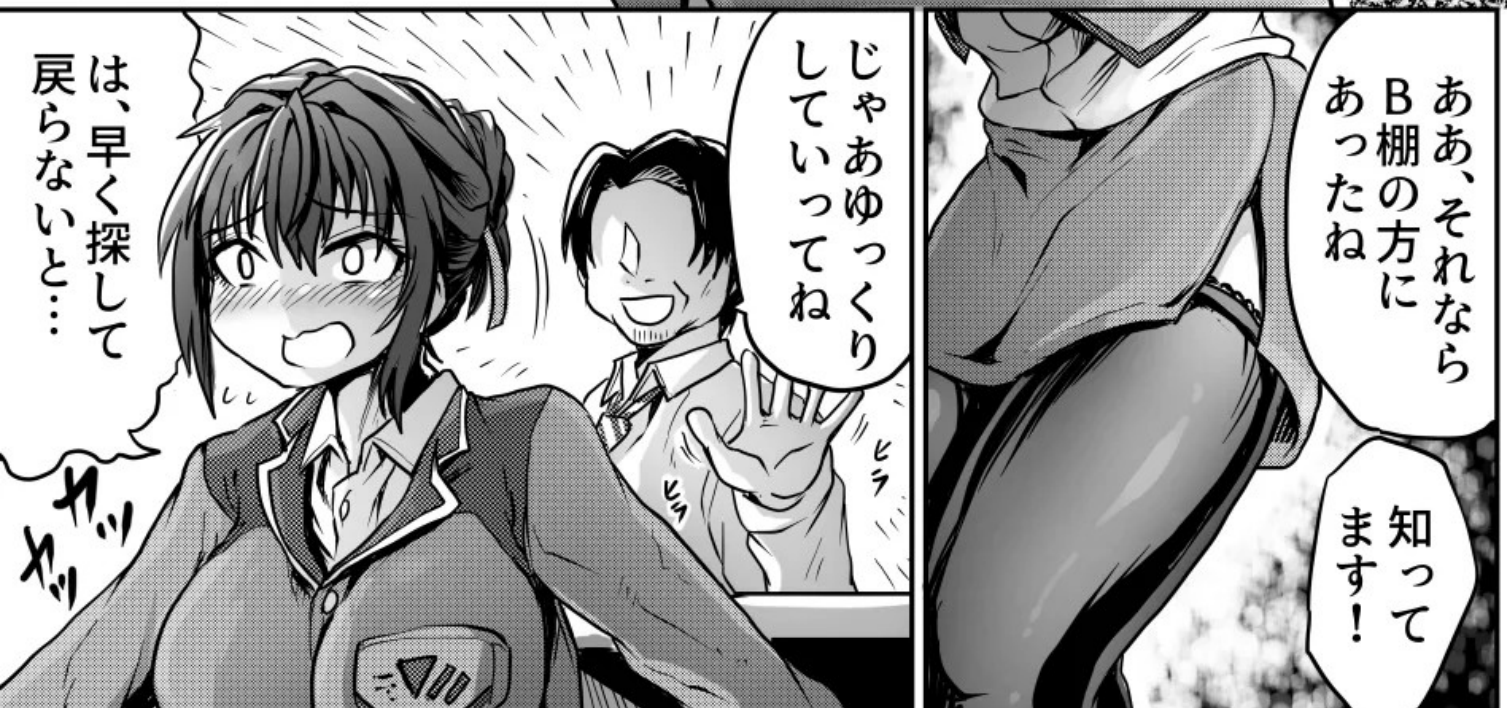
資料室

キョロ
キョロ
キョロ

キョロ

えっ...

宮脇さん





こんな古びた
書庫には滅多に
人が来ない

絶好の
サボり場所だ



例外的なのは
各部署の
検索係

前時代の範例
って奴に用が
できることが
ある



大半の仕事が
半自動化になった
中で、いいじゃない
ことだ

むりやり仕事を
作り出すことで
自らの社会性を
アピールする



社会人である
ことの意義
ってヤツだ



今や会社は
出合いの場、
かつての盛り場だ

若い世代は
それを忌避して
いるようだが…

もっとも
年数が経つと
バカバカしく
なってくる



若者は勝手に
新しい未来を
作ればいい

多くの大人は
世間の波に
従っている







彼女は
必死に声を
抑える



こちらは
逆に音を
立ててやる



ならば

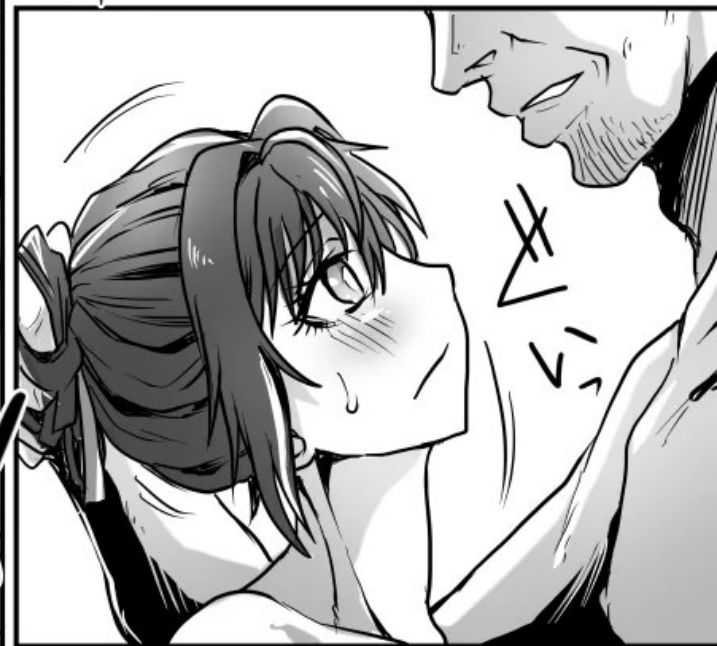
それが彼女のできる
精一杯の抵抗で
あるかのように



こんな所に誰も
来ないし、来ても
気にしないだろうに

できるだけ
淫靡に聞こえる
ように





この体勢は
お気に入りだ

んっ

こっちの服を
脱がさない限り
やめることはない

自ら相手の服を
脱がせるなんて
嫌がるはずだ

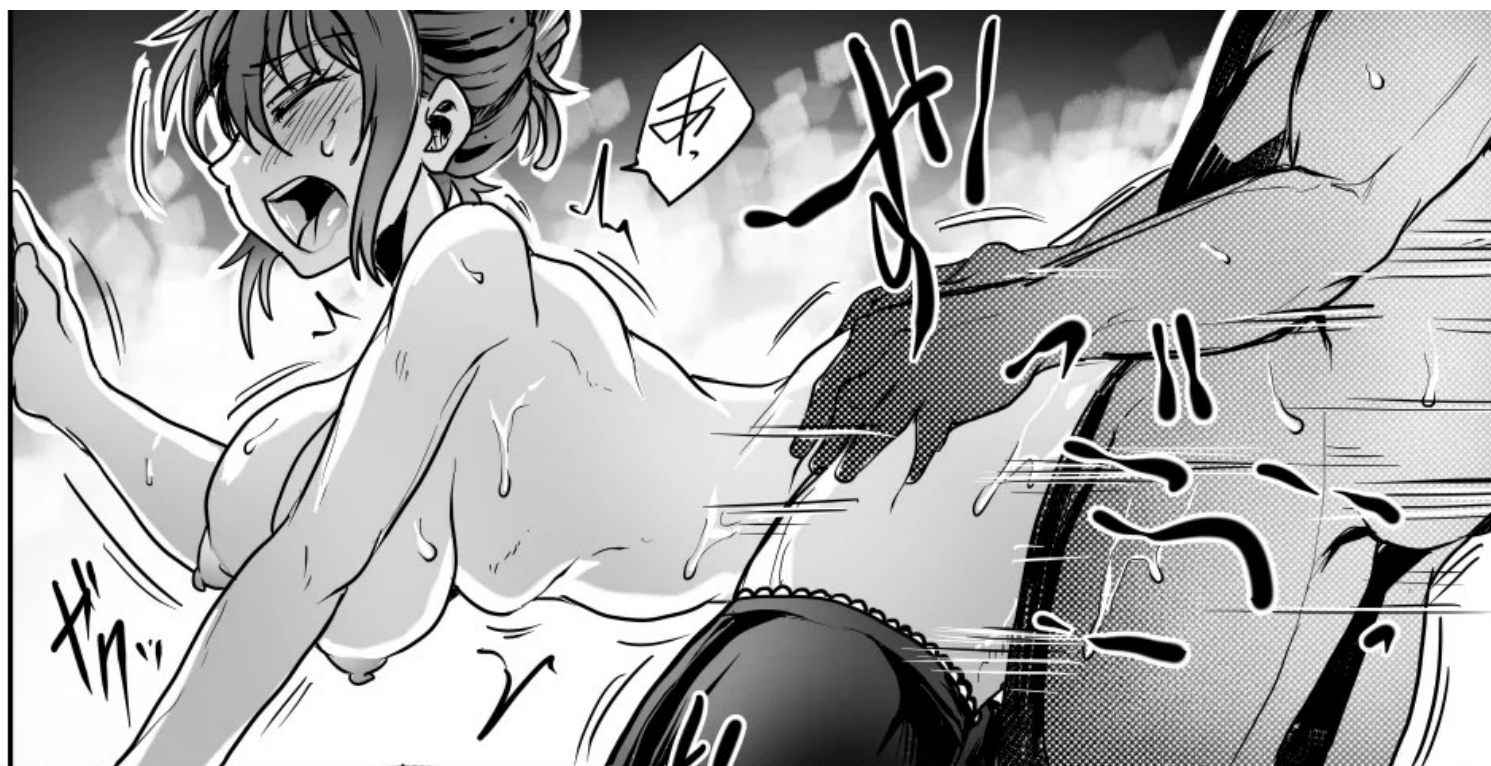
でも
脱がさないとい
終わりは来ない

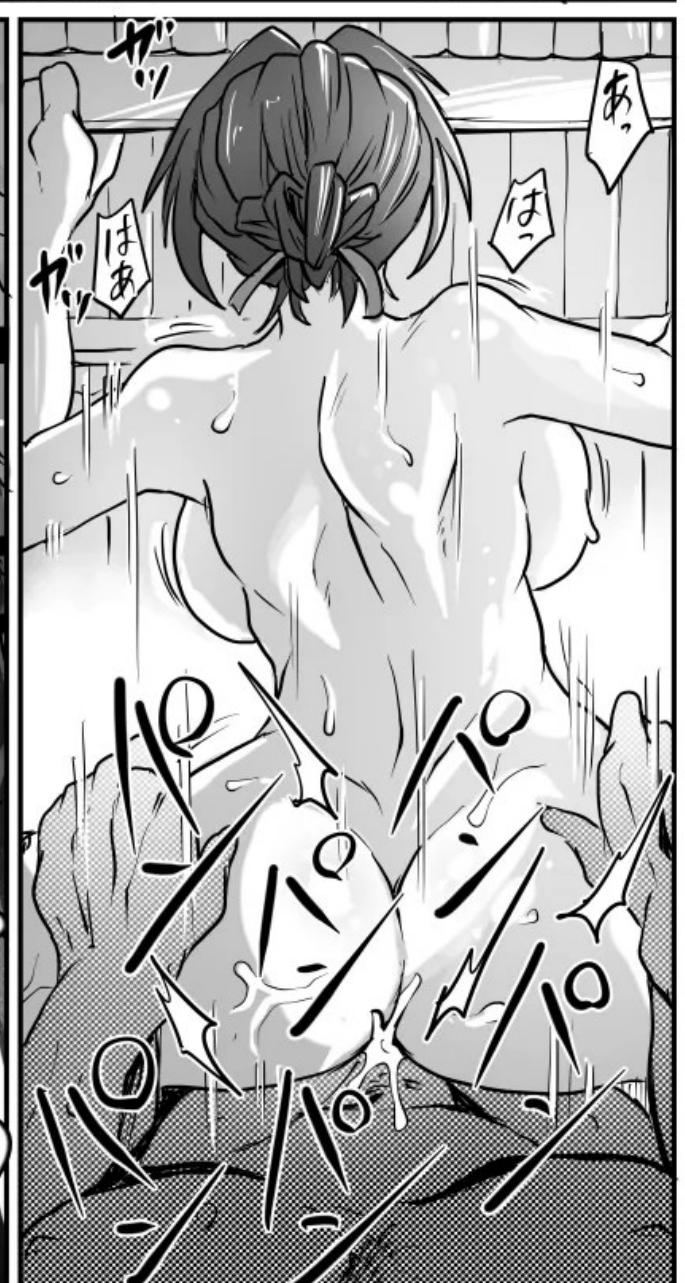
ニョギッ

ジレンマが
たどたどしい
手つきに
表れている

フー...









そのまま
体位を変えて



膣内に
たっぷりと
出し



再び突く

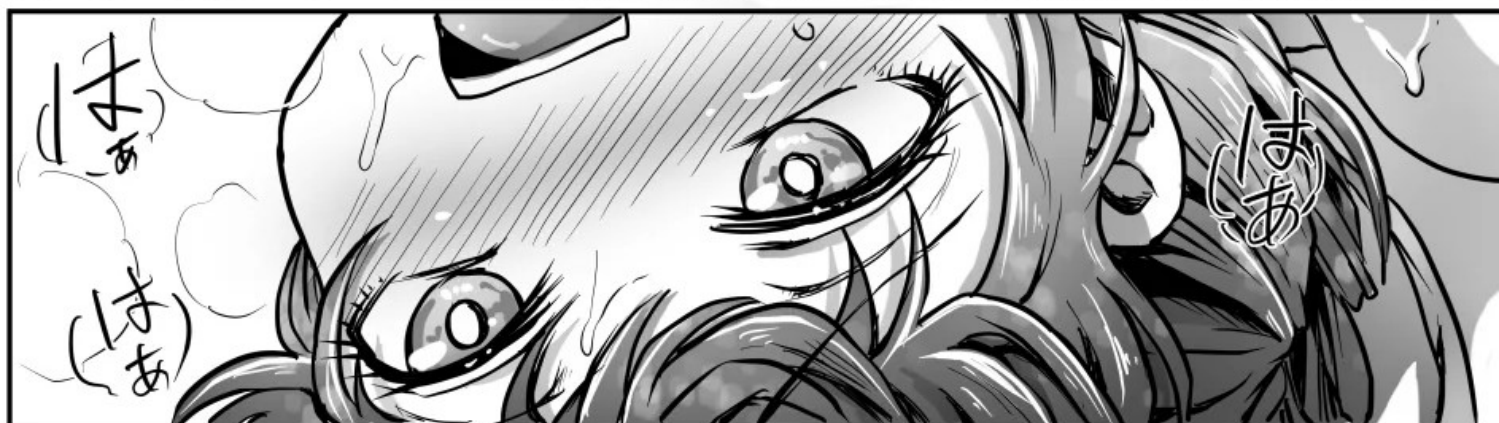


ゆっくりやると
半端な所で
逃げられる



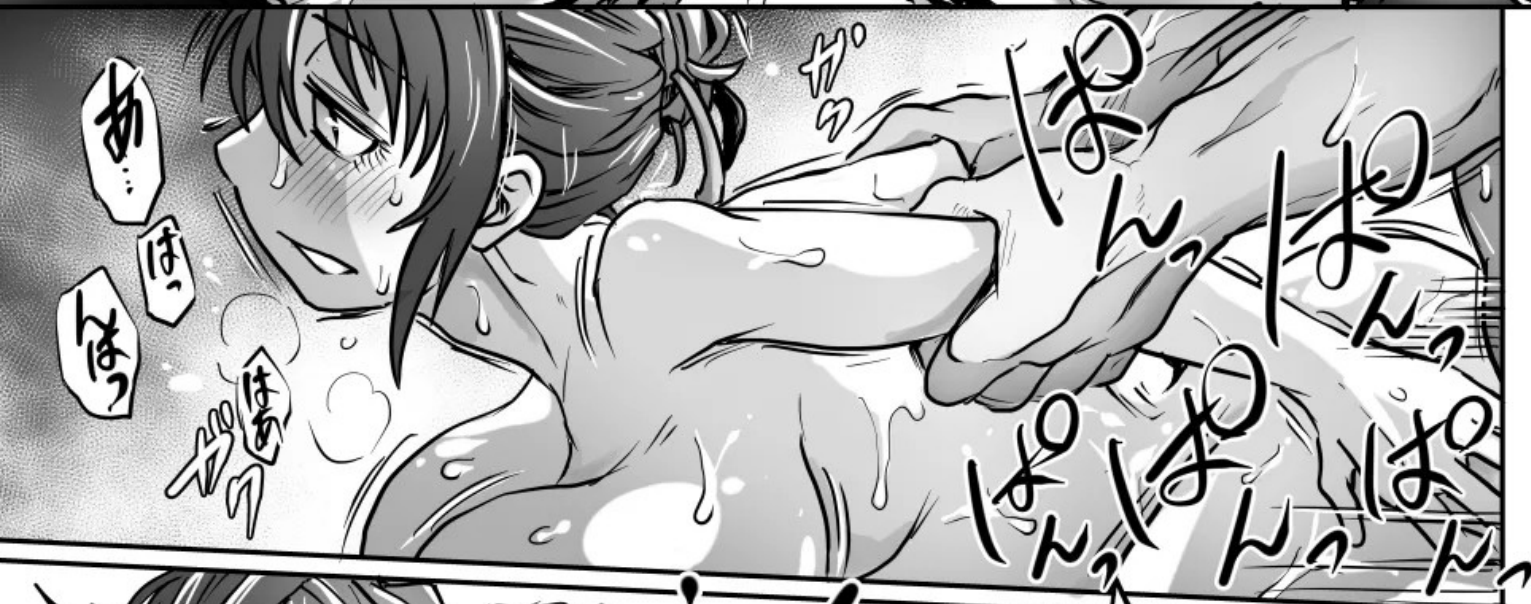
畳みかける
のが
基本だ













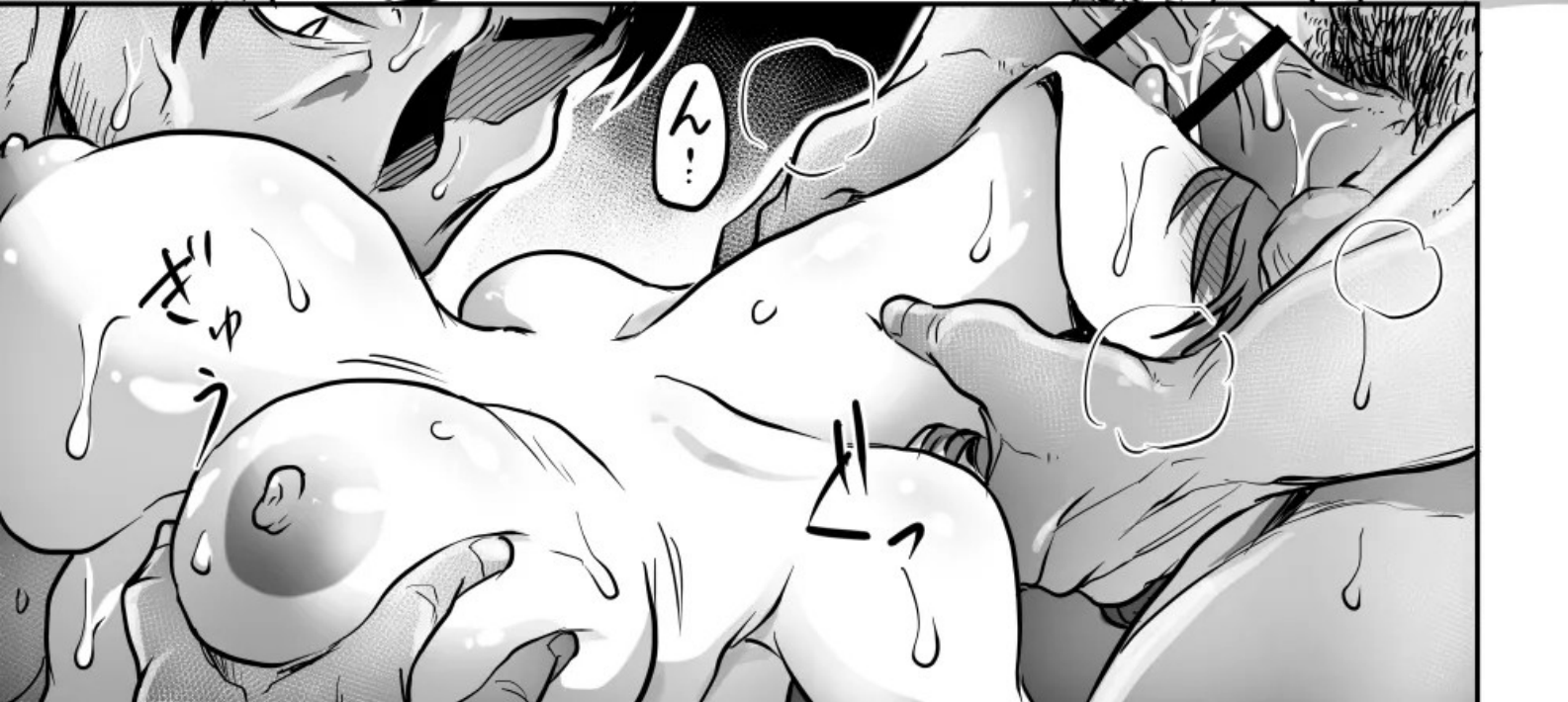




俺たちは
口ではイかない

上に下に
突かれては
彼女も大変だ

この辺でのんびり
進行するのも
悪くない



この辺りになると
疲れてきたのは
彼女だけではない

手を変え
品を変え
体位を変えて
きたこちらもだ

ん…

くっちは

若い娘に
そろそろ
ふんばって
もらう時間だ

はあ

はあ

グッ
グッ
グッ

△に

△に
△に
△に

ちゅく
ちゅく

彼女の
腰使いは
ぎごちない



これだけ
セックスを
しているのに

なかなか
改善
しない

羞恥のため
だろうか

まるで
挑発している
ように
もどかしい

その姿態を
楽しむのも
醍醐味の一つだ

しかし
休憩というには
丁度いい

後半戦に
むけての
発奮にもなる

十分
息をついた所で
後半戦開始だ

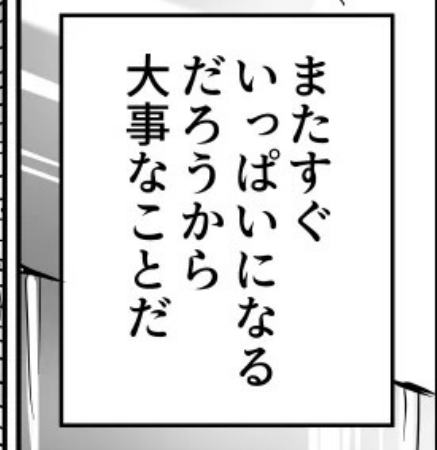
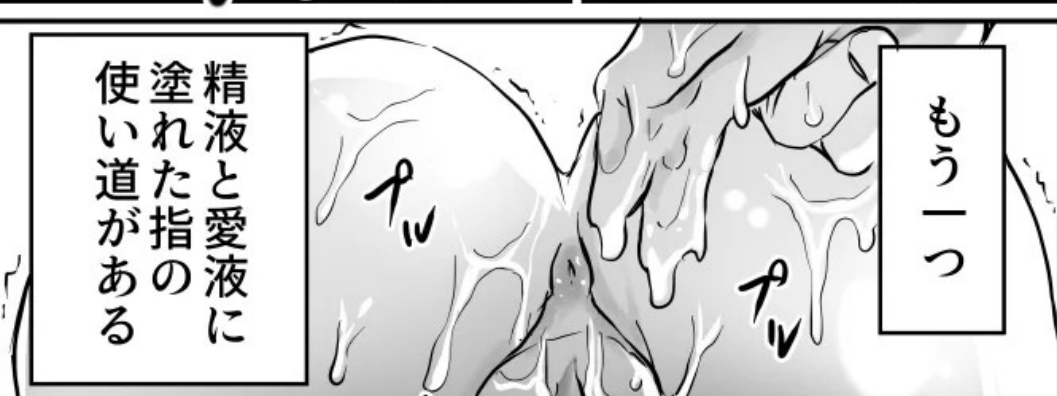
けれども
これ以上本棚の間に
いるのは狭すぎる

書庫の受付の傍に
ソファがある

これからもっと
乱れられる
ように

そこに場所を
移した方が
無難というものだ





二人分だけ
あって
量が多い

まずは中から
精液を
掻き出す

精液と愛液に
塗れた指の
使い道がある

もう一つ

一人なら
こちらはあまり
使わない

後ろの穴も
準備するのだ

またすぐ
いっぱいになる
だろうから
大事なことだ

しかし今日は
二人相手がいる





はっ!!

んあ

は

は

は

は

は



こちらは
勝負の最中だ

流石に声が
漏れるが、気に
してられない

二人で
激しく動く



相手よりも先に
いくわけには
いかないのだ

極限まで
尿道の中に精液を
しぼってしぼって

ああ

んん

す

す

す

す

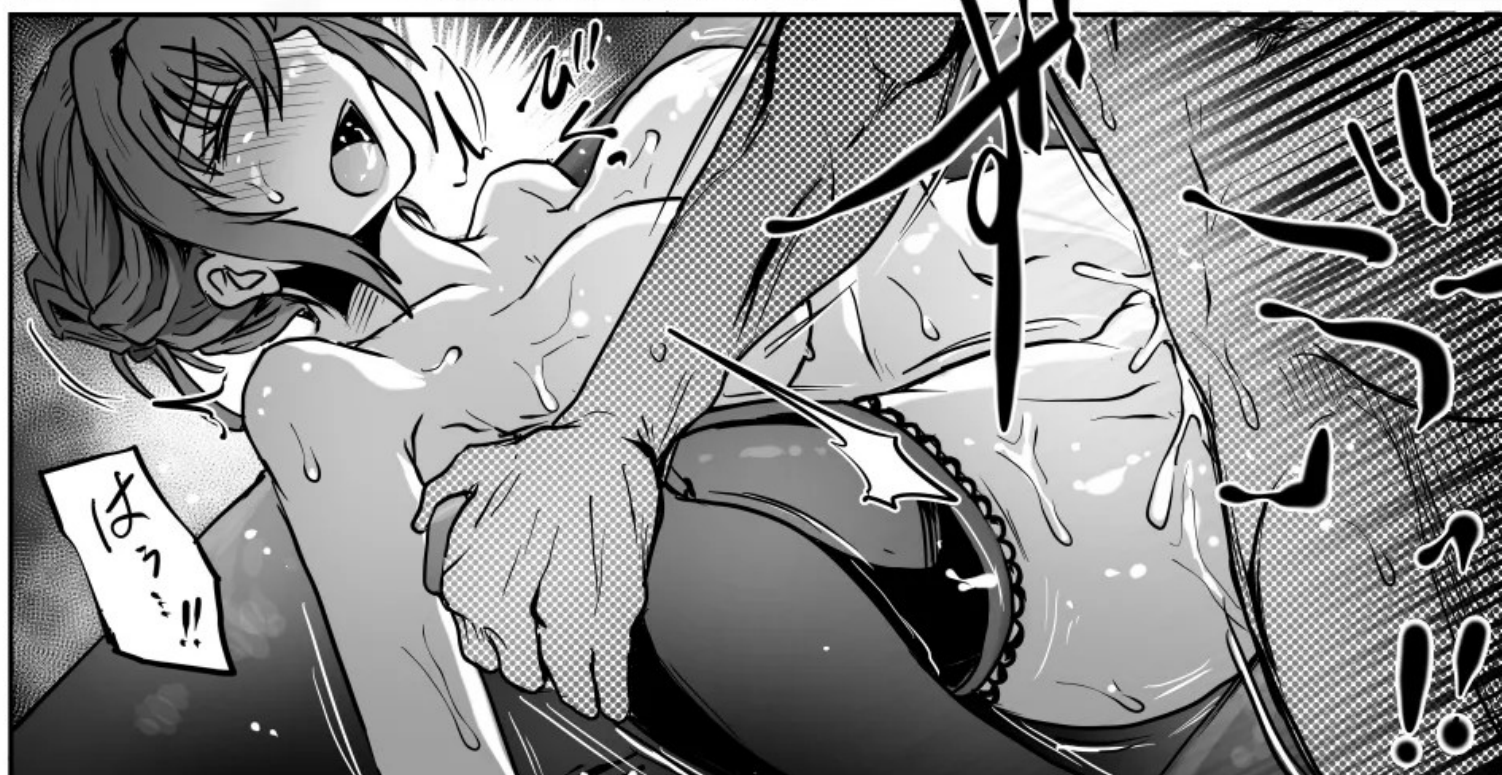
す

[illegible][illegible]

けれども
余韻に浸ってる
暇はない

今きちんと
犯しぬくことが
日々の活力に
なるのだ



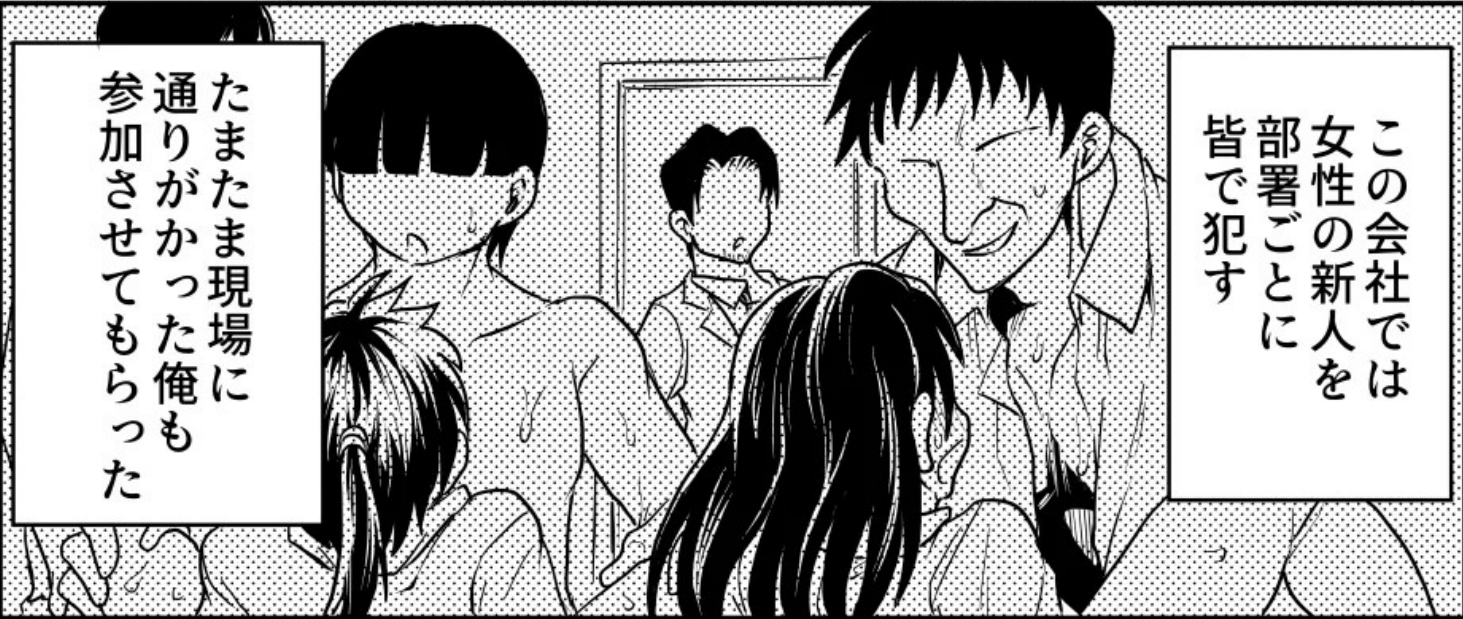




列に並んで
彼女を犯す



俺にとっては
思い出深いやり方だ



この会社では
女性の新人を
部署ごとに
皆で犯す

たまたま現場に
通りがかった俺も
参加させてもらった



制服を着せて
下半身が
ビショビショに
なるまで犯す



失禁するまで
というのが
慣例だ

その中で一番
耐えていたのが
彼女だ



俺はその時
3回並んだ

彼女はその時も
健気に声を
押し殺していた



こうして
よく会える
場所ができて
幸運だ



蕩けた表情と
声を抑える意地

羞恥と恍惚の
混じった顔は
ひどく魅力的に
見えた



こちらも
もう限界だ



膣内は精液で
パンパンに
なっている

とろお



そのまま
子宮の奥に
キスをした



ゆっくりと
掻きわけ
るように
挿入する



律動しながら
彼女の表情、
揺れる体を
楽しむ

おお

足を大きく開き
肩の力は抜けている

はあ

はあ

自然体で
この律動を
感じているようだ

漏れ出る吐息
が震えている

声は最後まで
羞恥を示した

空いた隙間に
今日一番を
注ぎ込んだ

中の精液を
掻き出し
ながら…









読了ありがとうございました。
2024/11/01

書庫では声を抑えて

くーらニ匹

R18